

安全情報データシート

1・化学品及び会社情報

製品名	Clear Dry Solution
製品コード	03-145
CAS No.	-
会社名	テフコ株式会社
住所	東京都八王子市越野5丁目5番地
担当部署	テクニカルセンター 技術部
電話番号	042-676-3513
FAX番号	042-676-9150
推奨用途	試験研究用

2・危険有害性の要約

GHS分類

物質又は混合物の分類	混合物質
物理化学的危険性	
引火性液体	区分2
健康に対する有害性	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2B
発がん性	区分1A
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器毒性（単回曝露）	区分3（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復曝露）	区分1（肝臓） 区分2（神経系）
環境に対する有害性	区分外
絵表示	



注意喚起語 危険
危険有害性情報

- H225 引火性の高い液体及び蒸気
- H320 眼刺激を起こす
- H335 呼吸器への刺激の恐れ
- H336 眠気やめまいの恐れ
- H350 発がん性の恐れ
- H360 生殖能又は胎児への悪影響の恐れ
- H370 以下の器官に障害を生じる 肝臓
- H371 以下の器官に損傷する恐れがある 呼吸器系
- H372 長期曝露あるいは反復曝露により以下の器官に障害を生じる 肝臓
- H373 長期曝露あるいは反復曝露により以下の器官に障害を生じるおそれ 神経系

注意書き（安全対策）

- 使用前に安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと
- 熱、火花等、熱源を避けて保管すること。
- 粉塵、又はミストを吸入しないこと。
- 換気のよい場所で使用すること。

この製品の使用時には飲食、喫煙禁止。
 保護衣、保護手袋、保護眼鏡を着用すること。
 取扱後には露出した手や肌をよく洗うこと。
 容器は密閉して冷暗所に保管する。

注意書き（応急措置）

飲み込んだ場合、すぐに口を洗浄すること。なお、無理に吐かせないこと。
 皮膚に付着した場合、すぐに皮膚を洗浄して取り除くこと。
 衣類に付着した場合、直ちに汚染した衣類を脱ぐこと。汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 眼に入った場合、すぐに数分間注意しながら洗うこと。もしコンタクトレンズを装着していた場合、取り外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続け、直ちに医師の診察を受けること。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 曝露、または曝露した懸念がある場合、医師の診察を受ける。
 火災の場合、消火には二酸化炭素、粉末消火剤を使用する。

注意書き（保管）

施錠して保管
 容器を密栓し、換気のよい冷暗所に保管すること。

注意書き（廃棄）

内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

その他

他の危険有害性

情報なし

3・組成及び成分情報

純物質もしくは混合物	混合物質
化学名	エタノール
化学式	CH ₃ CH ₂ OH
重量パーセント	20% (W/V)
化審法官報公示番号	(2)-202
CAS番号	64-17-5
その他の化学物質	非開示
不純物及び安定化添加物	なし

4・応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

すぐに石鹼と大量の水で患部を洗浄すること。炎症等を起こした場合には医師の手当てを受けること。

眼に入った場合

眼に入った場合、すぐに洗浄する。コンタクトを装着していた場合には取り外す。その後も洗浄を続け、直ちに医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合

すぐに口をすすぐ。直ちに医師に連絡する。なお、医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

5・火災時の措置

消火剤

水スプレー（水噴霧）、二酸化炭素（CO₂）、泡、粉末消火剤、砂
 使ってはならない消火剤
 情報なし

特有の消火方法

情報なし

火災時の特有危険有害性

引火性が極めて高い。有毒なガスを放出することがある。

消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

6・漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等の皮膚への付着やガスの吸入を防止する。風上から作業して、風下の人を待避させる。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないよう注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は大量の水で洗い流す。

回収、中和

情報なし

二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体及び場所をよく洗浄する。

7・取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

強酸化剤との接触を避ける。火気厳禁。局所排気装置を使用すること。

注意事項

容器の転倒や落下等の衝撃を与えるような粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

安全取扱注意事項

個人用保護具を着用すること。

保管

安全な保管条件

保管条件

容器は遮光し、冷暗所に密閉して保管する。火気厳禁。

安全な容器包装材料

ポリエチレン容器

混触禁止物質

強酸化剤、強酸

8・曝露防止及び保護措置

設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度・作業環境評価基準

設定されていない。

曝露限界

ACGIH (米国産業衛生専門家会議)

STEL: 1000 ppm (エタノール)

保護具

呼吸器用保護具

保護マスク

手の保護具
保護手袋
眼の保護具
側板付き保護眼鏡（必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡）
皮膚及び身体の保護具
長袖作業衣
適切な衛生対策
産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

9・物理的及び化学的性質

形状	水溶液
臭い	特異臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点	データなし
引火点	データなし
比重・密度	データなし
溶解性	水に可溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし

10・安定性及び反応性

安定性	
安定性	光により変質する恐れがある。
反応性	データなし
危険有害反応可能性	強酸化剤と接触すると発火する恐れがある。
避けるべき条件	高温、直射日光、熱、炎、火花
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素（CO）、二酸化炭素（CO ₂ ）

11・有害性情報

※・以下、エタノールに関して記載するが、この製品に関する情報が不足しているため、取扱いには充分注意すること。

急性毒性	
経口毒性	ラット LD ₅₀ : 7060 mg/kg ウサギ LD ₅₀ : 6300 mg/kg
経皮毒性	ウサギ LD ₅₀ : 20000 mg/kg
吸入	吸入（ガス） 分類対象外 吸入（蒸気） マウス LC ₅₀ : 39000 mg/m ³ /4 hr 本製品における急性毒性については区分外
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	
皮膚刺激性	ラット LCL ₀ : 5000 ppm/6hr ウサギ LD ₅₀ : 5000 mg/kg 本製品においては区分外
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験の結果より、中等度の刺激性ありとの報告より区分 2B
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない

発がん性	アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があること、エタノール及びその主な代謝産物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされていることより 区分1A
生殖毒性	親動物に一般毒性の影響の認められない濃度で、次世代において奇形が認められた。 [CERI・NITE 有害性評価書 (2005)] との報告から 区分1B
特定標的臓器毒性 (単回曝露)	ヒトの吸入曝露により、眼、及び喉や鼻腔などの気道への刺激症状の報告があること、血中アルコール濃度の上昇に伴い、中毒症状が認められるが、それが中枢神経系の障害との報告や、実験動物においても中枢神経系の抑制症状が見られていることから、 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
(反復曝露)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトにおける肝機能障害、アルコール不耐性の兆候、肝障害の増加 AST または ALT の上昇、限局性肝細胞壊死 ・動物実験における、SGPT 及び SGOT 活性の上昇、幼若動物の肝臓に病理組織学的な変化 [IRIS (1990)] ・ヒトにおける摂食障害、嘔吐等の症例、症状の消えた後でも肝臓の繊維化や組織球の集簇が認められた点、実験動物において肺胞壁の肥厚が認められた点について記載あり。 [CERI・NITE 有害性評価書 (2005)] 以上の報告より区分は以下のようにした。 区分1 (肝臓) 区分2 (呼吸器系) (※呼吸器系の区分は実験動物での結果による)
吸引性呼吸器有害性	分類できない

12・環境影響情報

※・以下、エタノールに関して記載するが、この製品に関する情報が不足しているため、取扱いには充分注意すること。

生態毒性	Chlorella vulgaris (クロレラ) EC₅₀: 1000 mg/L/96hr
	Daphnia magna (オオミジンコ) EC₅₀: 5463 mg/L/48hr
	Salmo gairdneri (ニジマス) LD₅₀: 11200 ppm/96hr

上記の記載より、水生環境有害性 (急性) は区分外。
難水溶性でなく、急性毒性が低いことから
水生環境有害性 (慢性) についても区分外。

残留性・分解性	分解度 : 89% by BOD
生体蓄積性	分類できない
土壌中の移動性	分類できない

13・廃棄上の注意

残余廃棄物

国及び地方公共団体における法律、条例、あるいは規制等に則り、適切に廃棄する。

汚染容器及び包装

国及び地方公共団体における法律、条例、あるいは規制等に則り、適切に廃棄する。

14・輸送上の注意

国際規制

航空及び海上規制情報

国連番号 1170

国連分類

国連危険物分類 (UN Haz Class) 3

国連包装等級 (UN Pack Group) III

国内規制

15・適用法令を参照のこと。

注意事項・運搬に際しては容器に漏れないことを確認し、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

15・適用法令

消防法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	名称等を告知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2 別表第9) No. 61 危険物・引火性の物 (施行令別表第1 第4号)
化審法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類 (危規則第3条 危険物告示別表第1)
航空法	引火性液体 (施行規則第194条 危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質Z類物質
PRTR 法	非該当

16・その他の情報

引用文献等

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)
 化学物質総合情報提供システム (CHRIP)
 化審法データベース
GHS 分類結果
 国立医薬品食品衛生研究所 (NIHS)
 国際化学物質安全性カード (ICSC)
 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 関係省庁連絡会議
GHS 国連文書 仮訳改訂 3版 (平成22年3月)
 一般社団法人日本化学工業協会
 「化学物質リスク評価支援ポータルサイト」 JCIA BIGDr
 National Institute of Health (NIH)
 U. S. National Library of Medicine, TOXICOLOGY DATA NETWORK (TOXNET)

免責事項

この安全情報データシートは、現段階における弊社の知識及び情報に基づき作成しておりますが、新たな情報が得られた場合には追記、改訂がなされることがあります。また、本書は安全な取り扱いや保管、廃棄等の情報を記載、提供しているのみであり、製品の保証書とはなりえません。なお、本内容は通常の取扱の範囲における情報であり、万一特殊な条件で取り扱われる場合には安全対策を十分に講じたうえでご使用ください。